



霊陽誌には「大森大明神」と記されている

きすき
木次線ストロール⑫

ひのぼり
日登駅

「伊能忠敬が参拝した神社と

心ほどけるカフェ」

取材日は12月16日の月曜日。どんよりとした冬雲が空を覆っている。土曜日の深夜から降った雪が、朝には屋根に薄く積もっていた。日曜の朝にもまだ雪が降っていたが、昼前には雨に変わって、屋根の雪も溶けてしまった。

峠道の積雪や凍結が怖いので、取材日を延期するわけにもいかず、

朝の7時半過ぎに庄原の自宅を車で出た。備後落合駅に近づくにつれて沿道に雪が残っていて、国道183号線から国道314号線に左折して木次線・油木駅に向かって登ると積雪の量が増えてくる。油木駅を過ぎて七ヶ所山トンネルをくぐると、雪景色だった。木々が雪の衣を纏っている。ただし、

路上の雪はシャーベット状で、車の走行に支障はない。三井野原駅を過ぎて奥出雲おろちループを下ると、雪は徐々に消えてなくなった。

国道314号線から県道25号線に入り、下久野駅に到着したのは9時20分だった。構内の線路跡利用の「駅ナカ農園」では、穴あき防草シートに青ネギの苗が植えられている。9時43分発の宍道行きに乗車、珍しく同乗者が一人。乗客はわたしを含めて7人。久野川に沿った鉄路の車窓は、トンネルもあって景観の変化が豊か。25分

程で日登駅に到着した。料金は210円。

出雲神話にちなんだ駅の愛称は「素戔鳴尊（すさののみこと）」。素戔鳴尊が八岐大蛇（やまたのおろち）を退治して奇稲田姫（くしなだひめ）を救い、須賀（須賀神社）の地へ向かう途中、大森の地にしばしば宿泊し、婚儀の準備をしたといわれている。その大森は駅の南方にあり、今は大森神社があって、素戔鳴尊や奇稲田姫などの神様を祀っている。

2018年に改修されたという駅舎の内部には、往時の面影がまだ残っている。待合室の隣に、「日登駅小さな展示場」という看板が掲げられた一室がある。ホームからガラス越しに、木次線に関する様々な資料が展示されているのが見える。待合室にドアがあったが施錠されていた。この駅は民間委託駅で、カーテンを引かれた事務室には明かりが灯っていたので、帰りに閲覧をお願いするつもりが、列車の待ち時間に余裕がなくスルーしてしまった。

待合室には2枚のチラシが額装されている。永井みゆきが歌う「雨の木次線」と清水博正の「東京坂道物語」。清水博正は群馬県出身の全盲の演歌歌手で、NHKのど自慢でグランドチャンピオンになりデビュー。2015年発売の「東京坂道物語」のカップリング曲（昔



発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10

誌面デザイン: ROUTE183
協賛：九日市愛好会